

第三者意見



株式会社インテグレックス

代表取締役社長 秋山 をね

慶應義塾大学経済学部卒業。米系証券会社にて外国債券のトレーダーを務めた後、2001年に、社会責任投資(SRI)と企業社会責任(CSR)の推進を行う(株)インテグレックスを設立、代表取締役役に就任。社会的責任投資フォーラム(SIF-Japan)代表理事、東洋経済新報社サステナビリティ報告書賞審査員なども務める。ファイナンス修士。

CSRレポートは、企業の理念実現に向けたコミットメントの発信ともいえます。そのような視点から意見を述べたいと思います。

1. 高く評価したい点

「行是」とその精神を原点とする「CSR憲章(経営理念)」の実現にトップがコミットし、役職員が一丸となって取り組みを進める姿勢が高く評価できます。

滋賀銀行の「環境経営」と「環境金融」には定評がありますが、そのベースに40年来脈々と受け継がれている「行是」と「CSR憲章」という確固たる理念があり、それゆえ取り組みの軸がぶれないということが印象的です。

CSRレポートでは、「地域社会」「役職員」「地球環境」との共存共栄という「CSR憲章」の3つの約束に沿って報告が行われ、地球環境との共存共栄では、事業活動での環境負荷低減だけでなく金融の役割を通じた環境への貢献が報告されています。従前からの金融機関としての先駆的な取り組みや、地域に根ざし、地域と共に行う活動の継続に加え、またしても全国の金融機関初となる生物多様性格付の運用やROC(炭素利益率)の目標設定等、常に新しい挑戦を続けています。

随所に掲載されている「しがぎんVOICE」により、取り組みを実践する役職員の声が伝わってきますが、役職員との共存共栄のための職場づくりでも、さまざまな制度、活動に加え、理念実践に向けた「しがぎん」の本気の姿勢こそが、役職員の誇り、意欲、働きがいに結びついているのだと感じます。

2. 更に期待したい点

先駆的な取り組みと、それを地域に広げていくコミュニケーション活動は高く評価できます。それゆえ、今後は他の地域金融機関との連携等で横展開を図り、取り組みの成果を地域から日本全国に広げていかれることを期待します。

また、地球温暖化・気候変動の進行により世界がさまざまな課題に直面する中、これまでの「環境」への取り組みの経験、ノウハウ、実績を活かして、日本を代表する地域金融機関として、世界とのコミュニケーションでもリーダーシップを発揮し、「お金の流れで地球環境を守る」金融機関のロールモデルとして、更に存在感を高めていかれることを望みます。

3. 未来への規範

CSRのSが、SocialからSustainabilityへ、Rが、ResponsibilityからRespectへと進化する中、「自分にきびしく 人には親切 社会につくす」を原点に、Sustainableな未来社会のために、「地域社会」「役職員」「地球環境」からRespectされ続ける「地域金融機関の規範」であり続けてください。